

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 5 月 26 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370960

研究課題名(和文) スイスにおける高齢者のウェルビーイングと代替医療の適用に関する文化人類学研究

研究課題名(英文) Cultural Anthropology Research on Older Adults' Well-being and the Application of Alternative Medicine in Switzerland

研究代表者

鈴木 七美 (Suzuki, Nanami)

国立民族学博物館・研究戦略センター・教授

研究者番号：80298744

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：社会の高齢化に伴い、心身の不調への対応として養生法への関心が高まっている。本研究では、「補完代替医療(CAM)」や「ヒーリング・オルタナティヴス」とも呼ばれてきた、近代西洋医学(コスモポリタン医学)に一体化されない養生の実践と展開を、高齢期のウェルビーイングに注目し検討した。近代西洋医学と多様な民間療法・代替医療が実践されてきたスイスとドイツに関し情報収集・現地調査を行った。地域における治療・養生の伝統を基盤としてきたスイスやドイツの補完代替医療は、高齢者の心身状況に関わるばかりではなく、養生文化の拠点が多世代を包摂するコモンズ(共有地)として展開することに影響を与えてきたことが明確となった。

研究成果の概要(英文)：In aging societies, regimens that work well with mental and physical disorders have been attracting more attention. This research studied the practices and deployment of various regimens called complementary and alternative medicine (CAM) and healing alternatives that have not been accepted in modern medicine (cosmopolitan medicine), focusing on their application toward promoting the wellbeing of older adults. Information and the results of field studies conducted in Switzerland and Germany, where modern medicine as well as folk medicine and alternative medicine have been utilized, were collected. Complementary and alternative medicines in Switzerland and Germany are based on the local tradition of treatment and regimens, and this research has revealed that the medicines not only affect the mental and physical wellbeing of older adults, but also help those places that work to become bases of local regimen culture and develop as commons shared by people of all ages.

研究分野：文化人類学

キーワード：スイス 補完代替医療 ウェルビーイング 高齢者 エイジング・イン・プレイス 地域文化 養生  
ドイツ

## 1. 研究開始当初の背景

社会の高齢化に伴い、とくに完治困難な心身の不調への対応や健康長寿を目指して、養生法や代替医療への関心が高まっている。このようなニーズの背景としては、継続的な不調を抱えた日常生活において、養生の要素を含んだ内容を、継続的な信頼関係を築いた治療者や、同様の悩みを抱えた人々と共有・検討できる環境が求められていること、移住・移民経験を持つ高齢者においては、移住前の生活において受けていた治療を求める傾向がみられること、などがあげられる。これらのニーズは、人々の人生経験と深く関連している。一方で、代替医療や養生法の適用においては、各地域の制度に照らし、適用の認可や、どのような形で可能か等、解決が必要な問題点も多く含まれている。

研究代表者は、ホメオパシー(同種療法)をはじめとする地域の自然資源に注目した代替医療や移住者の移住地における医療適用の問題に関し、研究調査を蓄積してきた(「スイスにおけるホメオパシーとハーブ」『癒しの歴史人類学』2002年;「非正統治療者モリス・メッセゲの植物治療 - 南仏ガスコニュ地方植物民俗療法の現在」『人間・文化・心』1: 249-262、1998年)。得られた成果のうち、とくに注目された点として、フランスでは非正統医療として排斥されたモリス・メッセゲの植物治療が、スイスでは長期に渡って実践されてきたホメオパシーや近代西洋医学と併用することで適用されていること、スイスにおけるそうした傾向の背景として、治療は地域環境に精通した住民が選択するものであるという認識が顕著であること、上記において、基礎的条件として、制度のありかたやその解釈、及び、治療者・被治療者の関係のありかた、などにおける柔軟な議論が続けられていること、が指摘できる。

先行研究では、ホメオパシーや漢方が慢性疾患にとくに適していることが指摘されてきた。しかし、高齢者のウェルビーイングに資することを念頭に、地域に根ざした多様なケア開発の一環として、代替医療適用の可能性を具体的に検討した研究はいまだ十分とはいえない。本研究では、社会の高齢化という状況下で、ケアの可能性を拡大することを念頭に現地調査を進めた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、「補完代替医療 (CAM)」や「ヒーリング・オルタナティヴス」とも呼ばれてきた、近代西洋医学に一体化されない代替医療や養生の実践と地域における治療・養生文化との関係を、高齢者のウェルビーイングの充実という観点から、その適用の可能性を検討することである。

代替医療適用の可能性とその条件につい

て、様々な領域の研究者・実践者が参照可能なかたちで、フィールドワークに基づく国際共同研究の成果を具体的に呈示する。調査対象とする主な地域は、近代西洋医学とホメオパシーの併用を基盤として植物療法(フィトセラピー)など多様な民間医療・代替医療が実践されてきたスイスやドイツである。高齢者が補完代替医療を適用する場や機会に注目して資料収集・調査を行い、地域資源を生かした治療やヒーリングの実践の可能性について、明確な資料を呈示する。

## 3. 研究の方法

エイジング(年を重ねる)環境に関する比較文化研究として、高齢社会における「オルタナティブ・メディシン」(代替補完医療)の適用に関し現地調査を進めた。

調査対象とした主な地域は、近代西洋医学とホメオパシーの併用を基盤として、植物療法、シュタイナー医学に基づくアンソロポソフィー、中医学などの多様な民間医療・代替医療が実践されてきたスイスである。

また、ホメオパシー及び植物療法に関し、スイスと影響関係にあるドイツやアメリカ合衆国と比較しつつ検討することにより、地域資源を生かした治療やヒーリングの実践の可能性について、情報収集・現地調査を展開し、様々な領域の研究者・実践者が参照可能な形で、フィールドワークに基づく成果を具体的に呈示した。

健康長寿との関係で注目されている代替医療の中でも、近代西洋医学と併用されているホメオパシーについて、ドイツのロバート・ボッシュ研究所にて、所長へのインタビュー、及び資料収集を行った。

現地調査として、高齢者が暮らしやすい街づくりを推進しているスイスやドイツの地方都市において、予備調査に基づき、高齢者と若者世代が共に作る環境と養生に配慮した暮らしの場について、企画と建設過程、共有スペースや時間の共有に関する構想と実践に関し、集中的に情報を収集した。

スイス中部地域において、フィトセラピーを活用している高齢者生活支援付住居が含まれる複合施設について現地調査を進めた。障害者が学び働く場、子どもたちの教育の場、農産物生産の場、コンサートホールやレストラン・ホテルなど内外の人々の利用に開かれた場を有する総合施設の各部署においてインタビュー調査および参与観察を行った。また障害者が住み慣れた街で仕事や交流をしながら長期に暮らせる住居・交流施設の創出について、比較的視点から調査を行った。

## 4. 研究成果

高齢者が代替補完医療や養生法の情報や適用を求めて訪れる機関について、とくにスイスの3地域に注目して現地調査・情報収

集・分析を行った。

第一の場所は、ドイツ語圏ベルン州に作られた継続ケア高齢者(退職者)コミュニティ(Continuing Care Retirement Community (CCRC))である。この施設は、首都ベルンから2時間ほどのエメンタール地方の山間地の広大な土地に、新たに多世代が利用できる施設として構想された。19世紀から水浴養生施設として利用されてきた伝統と、敷地内で生産される様々な薬草、野菜、果物、蜂蜜などを生かした食養生、そしてルドルフ・シュタイナーが開発した教育やアンソロポソフィーと呼ばれる心身の調整などが適用されている。近年は、多世代共生、若年世代における雇用機会の創出などの特徴を付加しつつある。

この施設の特徴として、情緒・知能に障害のある人々が仕事をしながら暮らす施設、子どもたちが学ぶシュタイナーに基づく学校が併設されていることがある。さらに、季節ごとのイベントには、近隣やベルンから世代を問わず人々が訪れている。地域の伝統や植生に関する情報について語り合い触れるコモンズ(共有地)を提供することにより、山間の新しい創造地に暮らす人々が孤立しないしかけの一つとして、代替補完医療や養生法が生かされている。

高齢者は、自宅で過ごすことが難しくなりこの施設に移動するので、包摂感を感じて暮らす(エイジング・イン・プレイス)感覚を得るために、近代西洋医学とともに、様々な補完代替医療や多様な心身のウェルビーイングに向けた活動が適用されている。自宅から高齢者対象集合住居施設やナーシングホームに移動したことによるストレスや不調に対し適用されてきた補完代替医療は、その施術の時間も合わせて、高齢者が施設やスタッフなど新しい環境に適応する機会を与え、とくに多世代共生型環境では、高齢者がその新しい街の住人として生活するための支援となっていることが明確となった。認知に問題のある高齢者に対する補完代替医療は、地域の食材を使った料理と飲食に基づく養生法や自然とのふれあいと休息など、日常活動とリズム調整が併用されることにより、施設居住であっても地域居住と同様に充実させることに繋がっていることが判明した。

この施設と比較する目的で、他の二つの地域に関する調査結果の整理と分析を行った。第二の場所は、フランス語圏ヴァレー州に設置されたフランスから移入されたモーリス・メッセゲの養生法が適用される施設である。様々な薬草と食事療法を併用したメッセゲの養生法、スイスで適用可能である代替補完療法であるホメオパシー、そして西洋近代医学が併せて用いられている。この施設には高齢者のみならず大都市ジュネーブをはじめ国内外から人々が訪れ、短期から長期滞在し養生に集中する。

第三の地域は、北東部アッペンツェル・イ

ンナーローデン準州およびアッペンツェル・アウサーローデン準州で、直接民主制の実施など伝統的な暮らし方が続けられている観光地である。民俗療法に深い関心を示した16世紀の医師パラケルススが活動した場所として知られてもいる。山間の地で得られる薬草療法、ボーデン湖の北のドイツから移入されたフォーゲルの薬草療法、そしてパラケルスス・クリニックでは鍼灸や中医学による施術を受けることができる。いずれも滞在型治療施設ではないが、食事療法や施術を求めて人々が訪れる。

これら三点の集中的調査と分析から、地域の伝統や歴史に基づいた代替補完療法は、身体への働きかけとともに、人々に薬草や食養生に関わる治療に触れ語り合う機会を与えてきた。鉄道の終点などすべて不便な地域にあって、日常生活から離れて休養したり楽しみを求める人々が集まることによって、地域や住人が孤立することはない。このことは、第一の場所であるベルン州に見られるように、孤立しがちな郊外型の高齢者対象CCRCや障害者対象住居コミュニティが、郊外の山間地で継続可能とする要素でもある。高齢者のウェルビーイングを充実する代替補完医療と養生法は、地域文化の一つとして位置づけ活用されることにより、多様な世代の人々が包摂感を感じて暮らす(エイジング・イン・プレイス)場(エイジ・フレンドリー・コミュニティ)の創出に寄与する可能性が明示された。

本研究成果は、国内外で発表し論考にまとめ、ウェブで広く一般に発信してきた。スイスの高齢者たちが親しんできた地域の癒し文化と養生思想に関する知見を、日本薬学会のホームページを通して広く医療従事者・研究者および一般に向けて提供し、成果の一部を日本文化人類学会研究大会において報告し、さらに一般・研究者を対象とした招待講演などにおいて発信した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7件)

鈴木七美「スイスにおける養生文化とエイジ・フレンドリー・コミュニティ」公益社団法人日本薬学会ホームページ,2016年(4月~7月)。(査読無)

(<http://www.pharm.or.jp/highlight/index.shtml>)

鈴木七美「高齢期のウェルビーイングと多様な住まい方 変わりゆく人の生(ライフスタイル)から考える」人間文化研究機構『人間文化』22:2-12,2015年。(査読無)

(<http://www.nihu.jp/sougou/jouhou/publication/ningen.html#22>)

鈴木七美「民族薬学」国立民族学博物館編『世界民族百科事典』pp. 706-707, 東京:

丸善出版,2014年。(査読無)

鈴木七美「未病から考える高齢社会の養生とレジリエンス」日本未病システム学会『日本未病システム学会雑誌』20(2):31-35,2014。(査読無)

⑤Suzuki, Nanami. Preface. In Suzuki, N. (ed.) *Healing Alternatives: Care and Education as a Cultural Lifestyle*. SER No. 120, pp.i-vi. Osaka: National Museum of Ethnology,2014。(査読有)

⑥鈴木七美「生命をつなぐ融合」『民博通信』144:8-9,2014。(査読無)

⑦鈴木七美「薬学がくれた私の道」日本薬学会『ファルマシア』49(8):739-742,2013。(査読無)

〔学会発表〕(計 9件)

鈴木七美「スイスの高齢者たちが親しんできた地域の癒し文化と養生思想」みんぱくウィークエンドサロン 研究者と話そう、2016年4月10日、国立民族学博物館(大阪府吹田市)

鈴木七美「コメント」みんぱく公開講演会「育児の人類学、介護の民俗学」(主催:国立民族学博物館・日本経済新聞社)2015年11月13日、日経ホール(東京都)

鈴木七美(招待講演)「医療現場での想像力 エイジング・イン・プレイスと養生」日本文化人類学会研究成果公開発表シンポジウム「人類学的想像力の効用」2015年11月8日、金沢市しいのき迎賓館3階セミナールームB(石川県金沢市)

鈴木七美「多世代共生『エイジ・フレンドリー・コミュニティ』構想と実践の課題 変動のなかのエイジング・イン・プレイス」日本文化人類学会第49回研究大会、2015年5月31日、大阪国際交流センター(大阪府大阪市)

⑤鈴木七美(招待講演)「高齢化時代のエイジング・イン・プレイス 『エイジ・フレンドリー・コミュニティ』運動と課題」第151回東北人類学談話会、2014年12月17日、東北大学文学研究科棟2F大会議室(宮城県仙台市)

⑥鈴木七美「企画趣旨」国際セミナー「現代のヒーリング・オルタナティヴス ヨーロッパの実践から」「ケアと養生の文化」研究会、2014年10月30日、国立民族学博物館大演習室(大阪府吹田市)

⑦鈴木七美「企画趣旨」公開セミナー「現代のヒーリング・オルタナティヴス 医療人類学の視点から」「ケアと養生の文化」研究会、2014年7月18日、国立民族学博物館大学院演習室(大阪府吹田市)

鈴木七美「趣旨説明」人間文化研究機構公開講演会・シンポジウム「高齢者のウェルビーイングと多様な住まい方」2014年3月8日、イイノホール(東京都)

⑨鈴木七美(招待講演)「ウェルビーイングとケア・養生の文化」第20回日本未病シス

テム学会学術総会 超高齢社会における未病イノベーション シンポジウム3「人はどう生まれ どう生きるのか 時間軸の未病」2013年11月9日、学術総合センター(一橋大学一橋講堂)(東京都)

〔図書〕(計 1件)

Suzuki, Nanami (ed.) *Healing Alternatives: Care and Education as a Cultural Lifestyle*. SER No. 120 National Museum of Ethnology, 2014. (147頁)

〔その他〕

ホームページ等

国立民族学博物館スタッフの紹介

日本語頁:

<http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/organization/staff/suzuki/index>

英語頁:

<http://www.minpaku.ac.jp/english/research/activity/organization/staff/suzuki/index>

Suzuki, Nanami, Preface. In Suzuki N. (ed.) *Healing Alternatives*. SER 120. 2014. (<http://hdl.handle.net/10502/5408>)

鈴木七美「高齢期のウェルビーイングと多様な住まい方 変わりゆく人の生(ライフスタイル)から考える」人間文化研究機構『人間文化』22、2015年、2-12頁。(<http://www.nihu.jp/sougou/jouhou/publication/ningen.html#22>)

鈴木七美「スイスにおける養生文化とエイジ・フレンドリー・コミュニティ」公益社団法人日本薬学会ホームページ、2016年(<http://www.pharm.or.jp/highlight/index.shtml>)

6. 研究組織

(1)研究代表者

国立民族学博物館・研究戦略センター・教授  
鈴木 七美(Suzuki Nanami)

研究者番号: 80298744